



あくていぶ21 伊藤 健司 議員

- ①障がいのある方々への支援について
- ②地域福祉活動拠点の整備について
- ③文化都市「鈴鹿」の緑化について

質問① 生徒の進路支援、日中一時支援、就労支援をどのように取り組んでいくのか。

答弁① 進路支援は特別支援コーディネーターの活用強化をする。日中一時支援は事業所拡充のため介護保険事業所にも委託の範囲を広げていけるよう努める。就労支援について、ジョブコーチ制度は関係機関へ積極的に必要性を働きかける。職親制度やゴールド人材センタとの協働・連携は関係部局に対する働きかけの強化。情緒障害児短期治療施設の設置については今

後も誘致に向けて県に働きかける。

質問② 総合福祉センターの必要性と現在ある社会福祉センターの整備についてどのように考えているか。

答弁② 総合福祉センターの必要性を含め、現在の社会福祉センターの建替え等を検討する委員会組織化を考えていく。

質問③ 日本の道路百選に選ばれたこともある樺並木がシンボルであった中央道路の、文化的景観の消滅等、今後の緑化推進はどのようにしていくのか。

答弁③ シンボル道路としての緑化及び景観については「まちの緑化推進」の中の道路の緑化推進で行う。今後は市民の理解の向上に努め、緑・自然のあるがままの状態での緑化を進めていきたい。



政友会 鈴木 義夫 議員

産業誘致の促進策について

質問① 産業誘致は地域の発展のため大変重要である。鈴鹿市には既に多くの企業が立地しているが、投資の良好な立地条件を勘案すればまだまだ発展の余地は大きい。工業団地の新規造成計画はあるか。

答弁① 当面、新規造成する具体的な計画はない。

質問② 最近、農地の再活用策として工業団地を造成しようとの機運が各地にみられる。こうした動きを助長するには「進出企業探し」を手助けすることが重要。そこで、三重県の東京事務所に職員を常駐

させるなど、情報収集専担部署を設置してはどうか。

答弁② 三重県の各機関とは情報交換しているが、今後益々連携を強めたいと考えており、県の東京事務所に職員を常駐させることも検討してゆきたい。

質問③ 当市の産業誘致政策は他市町村と比べてまずまずの水準にあるが、三重県の同政策は他県と比べてかなり消極的である。これが当市の産業誘致の障害のひとつとなっている。例えば、産業誘致に対する補助金を増額するなど、もっと積極的な姿勢に転換するよう強く働きかけてはどうか。

答弁③ 三重県も努力しているが、他県にはさらに充実した優遇制度を設けていることは認識している。近隣他市とも連携し県に制度の充実を働きかけたい。



あくていぶ21 森 喜代造 議員

- ①高齢者世帯の火災時における対策
- ②赤バイの活動の現状について
- ③成人式について
- ④地籍調査の進捗状況について

質問① 高齢者世帯の火災を未然に防ぐ有効な予防策はあるのか。

答弁① 高齢者宅を対象に住宅防火診断を実施し、地域の民生委員の協力を得て高齢者宅を訪問して防火指導を行う。又住宅用火災警報器の設置を義務づけ、啓発活動を実施していく。

質問② 赤バイの活動状況について初期消火には先導していくのか。

答弁② 出初式やイベントによる広報活動、更に火災など消防車両が入れない狭隘地区きょうあいに活動している。又通常の火災において消防車を先導する事はない。

質問③ 毎年市民会館で行っているがなぜ場所を変更したのか。又雨や寒さ対策、駐車場確保は万全か。

答弁③ 成人式の実行委員会を立ち上げ、知名度の高い鈴鹿サーキットでの開催を望んだ。雨の場合は500人収容のVIPルームを用意しており、寒さ対策は各案内を通して防寒対策の呼び掛けを実施している。駐車場はレーシングコース及び遊園地駐車場が利用できる。

質問④ 現在の進捗状況と終了年度予定はいつか。

答弁④ 白子駅周辺市街化区域から順に実施する。終了予定は60年後で市の9割を目標にしている。